

『Bunkazai Design Contest 2020』 入賞作品発表

札幌の歴史文化を暮らしのグッズに

主催：NPO法人北海道遺産協議会

共催：札幌市（市民文化局文化部文化財課）

協力：北海道遺産おさんぽスタンプラリー対象施設

■コンテスト実施概要

○応募総数

トートバッグ部門： 34 作品

缶バッジ部門： 10 作品

コースター部門： 13 作品

応募人数： 36 名

応募者居住地： 海外と日本全国からの応募あり。道内は23名、内札幌市内は21名

応募者職業等： デザイナー、クリエイター、小学生、専門学校生、大学生、一般の方々など

○審査会実施概要

日時： 2021年1月13日（水）13時～16時30分

会場： 札幌市役所地下1階3号会議室

<審査員／分野>

*伊藤 千織（伊藤千織デザイン事務所）／ プロダクトデザイン

*照井 康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所）／ 建築

*平塚 智恵美（有限会社叶多プランニング）／ 商品化、アートマネジメント

*野村 ソウ（スタジオワンダー）／ グラフィックデザイン

*酒井 秀治（株式会社SS計画）／ まちづくり、コミュニティデザイン

*田中 敦士（札幌市市民文化局文化部文化財課）

*萩 佑（NPO法人北海道遺産協議会）

○授賞式およびグッズお披露目会

日にち： 2021年2月23日（火・祝）

会場： 札幌駅前通地下広場（チカホ北3条交差点広場西側）

内容： 「さっぽろれきぶんフェス2021」会場にて授賞式およびグッズのお披露目

*「さっぽろれきぶんフェス2021」体験プログラム（10時～12時 当日先着順）にご参加いただいた方に【缶バッジ】を配布。ステージ企画（13時～16時 事前申し込み）をご覧いただいた方に【コースター】を配布。

*【トートバッグ】は、当日はお披露目のみとなりますが、北海道遺産協議会の新年度イベントでの配布や会員特典として配布予定。イベントはweb等でお知らせしますが、詳細についてはお問合せください。

*「さっぽろれきぶんフェス2021」の詳細については、札幌市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/rekibunfes.html>

※次ページ以降に掲載の作品は、ご応募いただいた時点での内容となります。表記の相違などにより、グッズ制作の際にデザインが一部変更となる場合があります。

■ トートバッグ部門 審査講評



『札幌の歴史文化を暮らしのグッズに』と、はじめられた今回の公募。環境問題からもトートバッグの注目が高い。私は文化財がより伝わり、男女ともに使用され、そしてデザイン性、インパクトなど考慮して加点を。皆納得の上選ばれた2作品。小久保さんのトートは、表裏別々に札幌の文化財を豊富にイラストで表現したカラフルでおしゃれな作。巡っても贈っても楽しい。もう1点の北村さんのトートは、時計台をダイナミックに且つクラシックに描いたインパクト大な作。共に老若男女に好まれるデザインで、持ち歩く姿が楽しみだ。今後も文化財が暮らしに根付くグッズコンテストの継続に期待したい。

有限会社叶多プランニング 平塚 智恵美

強烈な独自性がエネルギーとなっている作品は少ない印象でしたが、沢山の力作に出会いました。入賞の根拠として、共通して持ち歩くトートバッグの特性とその平坦な面をしっかりと活かしている、そして伝える・わかる、瞬発力の高さがしっかりあるという点がありました。文字の扱いでもっと良くなる様に思いましたが、小久保さんのイラストは建物とそれ以外の位置関係も考えられていた点も良かったです。入賞作品が手に取り使われ、誰かの目に留まり、話題となり、札幌観光を盛り上げる一つとなることに期待します。入賞以外でも富樫直美さんのイラスト表現の独自性、小林龍一さんの構成力とシンプルなアイデアも非常に好感が持てました。せっかくなのでそれぞれの作品にもオフィシャルの目につくような機会があればいいですね。入賞・入選の皆様おめでとうございます。

スタジオワンダー 野村 ソウ

入選作品はいずれもキラリと光る個性を放っていてグッズ化したいものばかりだったが、中でも入賞した「Geometric Hokkaido」はその潔いデザインからくるわかりやすさ・インパクト、「Sapporo Bunkazai Illustration Totebag」はカニ・鮭・牛などある意味ベタな北海道イメージと同一に文化財を散りばめた構成の新鮮さが評価されたと思う。入賞とはならなかったが、当時の活用風景を窓に投影した「豊平館トートバッグ」には新たな文化財デザインの可能性を感じた。今後このコンテストを契機としてもっと多くの創造力が文化財の魅力発信に活かされることを期待したい。

株式会社ss計画 酒井 秀治

トートバッグ部門 入賞作品



小久保 友梨香 「Sapporo Bunkazai Illustration Totebag」



北村 友莉 「Geometric Hokkaido」

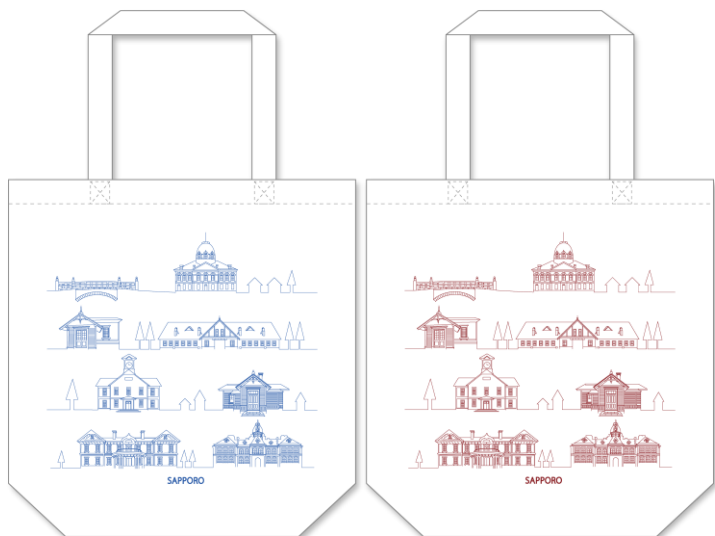
トートバッグ部門 入選作品



大橋 菜々「豊平館トートバッグ」



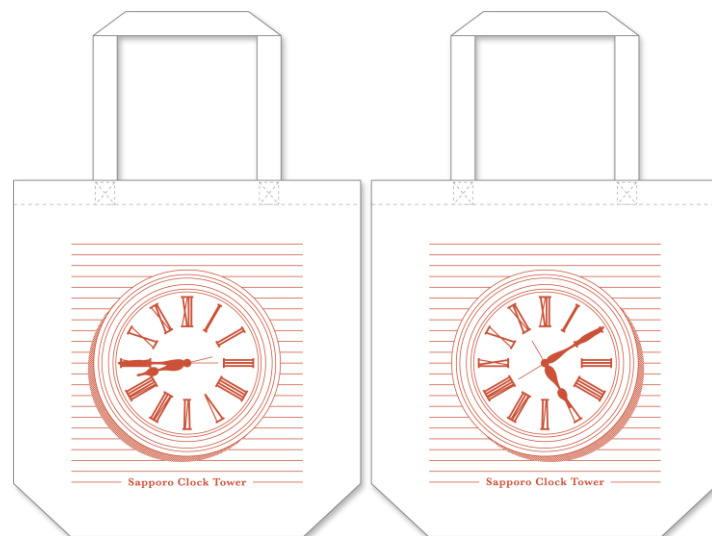
吉田 未玲
「サッポロノスタルジー」



坂本 苑子「札幌が築き上げた時代の糸」

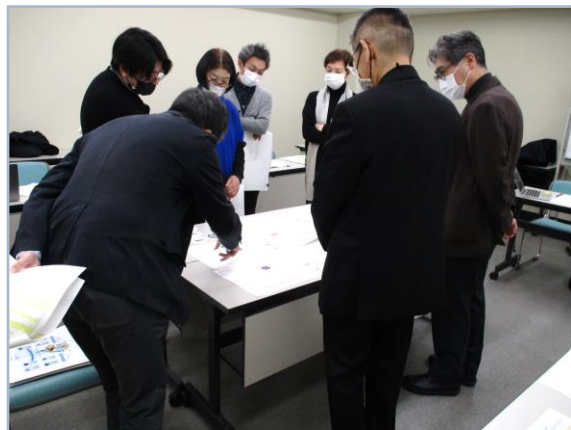


富樫 直美(株式会社 Workup)「北国の植物と動物」



小林 龍一「Sapporo Clock Tower」

■ 缶バッジ部門 審査講評



入賞された2名の方、おめでとうございます。「雪降る石」は、軟石の石肌をしんしんと降る雪のような表情と捉えたことにより、札幌の自然環境と共にある文化財の魅力が作品から身近に感じられます。「Hokkaido Heritage MOERENUMA PARK」は「文化遺産とは何か」を掘り下げ、「現在進行形の文化財」として伝えたい思いが力強く感じられました。

作品は道内に留まらず、全国、海外からも応募いただきました。ありがとうございました。より多くの方々と札幌の歴史文化を共有できるこのような機会が今後も継続的に設けられることを願っております。

株式会社照井康穂建築設計事務所 照井 康穂

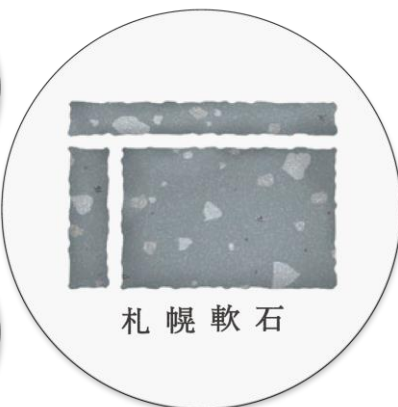
今回応募があった作品はいずれもそれぞれの文化財の特徴を捉えて個性的に表現されたものでした。文化財の魅力は建物などそのものの素晴らしさに加え、歴史やそこにまつわるストーリーにもあると考えます。入選された「Hokkaido Heritage MOERENUMA PARK」「雪降る石」はとくにその背景となるストーリーが作品を通して感じられた点を評価させていただきました。

今回のコンテストがより多くの方が札幌の文化財に親しむきっかけの一つになることを願っています。ご応募いただいた皆様ありがとうございました。

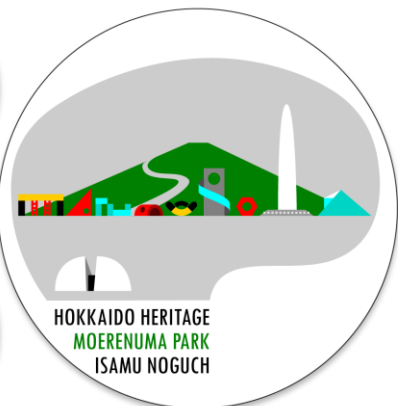
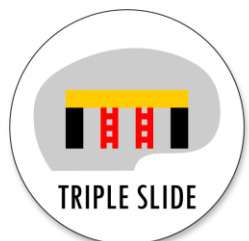
NPO法人北海道遺産協議会 萩 佑

■ 缶バッジ部門 入賞・入選作品

<入賞作品>



早川 絢子「雪降る石」

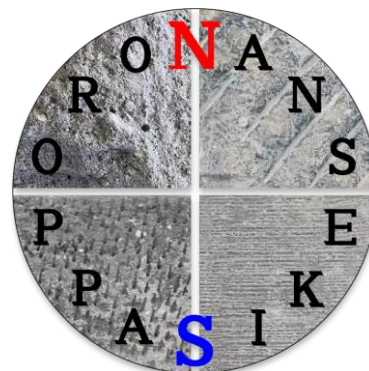


鄭 太景「Hokkaido Heritage MOERENUMA PARK」

<入選作品>



鈴木 温
「札幌ビール博物館缶バッジ」



古川 浩康
「軟石pride」



Musou
「musou (アトリエ ペン具) ③」

■ コースター部門 審査講評



コースターの円形を生かしたシンボリックなデザインが多く、小さく制限がある画面内でも様々なアイデア展開が集まりました。奇しくも札幌時計台をモチーフにした作品アイデアが重なり、審査も非常に苦慮しましたが、コンセプトと文化財の顔が分かりやすく伝わる小林さんの作品の完成度が高評価となりました。吉田さん、北村さんは画力・構成力共に素晴らしく、お土産としてもらっても喜ばれそうな賑やかで楽しい作品。安倍さんは、今までにないインパクトのある時計台の表現が印象的。日常の中で気軽に楽しめるデザインとして、コースターの可能性を再発見する審査となりました。

伊藤千織デザイン事務所 伊藤 千織



コースター部門は対照的な2作品。「サッポロノスタルジー」は、多数の歴史的建造物の中に新旧の市電を配置し、文化財を通り過ぎて行った時間の奥行きとともに、明るい未来をも予感させる、賑やかな作品。一方、「Sapporo Clock Tower」は、時計台という単独の建造物の、さらにその一部分である、時計の文字盤をクローズアップしたシンプルな作品。使う者の寛ぎのひと時の中に、さりげなく時計台のイメージを滑り込ませ、文化財を身近に感じる豊かな暮らしの一助になると期待。

札幌市市民文化局文化部文化財課 田中 敦士

■ コースター部門 入賞・入選作品

<入賞作品>



吉田 未玲「サッポロノスタルジー」



小林 龍一「Sapporo Clock Tower」

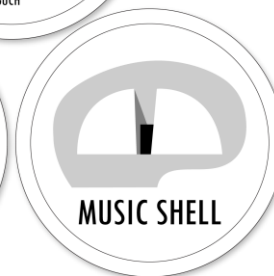
<入選作品>



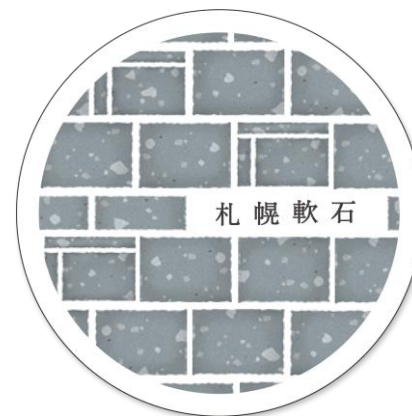
北村 友莉
「POP_Beer」



安部 明音
「Sapporo Clock Tower」



鄭 太景
「Hokkaido Heritage MOERENUMA PARK」



早川 絢子
「雪降る石」